都市再開発の黒人コミュニティへの衝撃
－20 世紀中葉のシカゴ、ウエスト・サイド－

武井　　寛*

The Impact of Urban Renewal on the Black Community : Chicago's West Side in the Mid-Twentieth Century

TAKEI Hiroshi*

要　旨

本論文は､1940 年代から 50 年代のアメリカ合衆国のシカゴに焦点を当て、第二次世界大戦後の都市再開発によって黒人居住区が規定され、ウエスト・サイドに新たな黒人ゲットーが形成されていく過程を考察することを目的とする。ウエスト・サイドの黒人コミュニティは、再開発によって移転してきた黒人や南部黒人などが混合したコミュニティを形成していた。また、この時期に新しく採用された高層住宅という建築スタイルは、その後に多くの公営住宅で用いられ、黒人貧困層の集中を招いてしまった。本論文では、20 世紀中葉の都市の衰退を検討する際には、産業構造の転換、郊外化、そして都市再開発という 3 つの要素を関連させて分析することが重要であると論じる。

＊　神田外語大学非常勤講師　Part-time Lecturer, Kanda University of International Studies.

国際社会研究（神田外語大学国際社会研究所紀要）第 2 号、2011 年
The Kanda Journal of Global and Area Studies Vol.2, 2011

Abstract

This article examines the ways in which postwar urban renewal contributed to the emergence of new black ghettos in the West Side of Chicago from the 1940s to the 1950s. The black community in the West Side consisted of African American migrants from the South as well as African American residents displaced by urban renewal. The "high rise" architectural style, first introduced to the West Side and later adopted in other public housing projects, triggered the concentration of poor African Americans in public housings. This article demonstrates that the mid-twentieth century urban decay occurred in the interrelationship between the transformation of industrial structure, suburbanization, and urban renewal.

1. はじめに

アメリカ合衆国大統領リンドン・B・ジョンソンは、1964 年の一般教書演説の中で貧困が全国的な問題となっており、この問題に対処するために「貧困との闘い（War on Poverty）」を行うと宣言した [1)]。1950 年代後半から再注目されていくこの貧困とは、製造業における機械化の促進や産業構造の変化、郊外化に伴う人口移動による白人人口の都市からの流出、収入配分の格差拡大など様々な社会的・経済的な問題と関連させながら説明された [2)]。貧困問

1) Lyndon B. Johnson, "Annual Message to the Congress on the State of the Union, January 8, 1964," <http://teachingamericanhistory.org/library/index.asp?documentprint=1379> (2009 年 6 月 8 日).

2) William H. Chafe, *The Unfinished Journey: America since World War II*, 4th ed. (New York: Oxford University Press, 1999), 236-243; James T. Patterson, *America's Struggle against Poverty in the Twentieth Century* ([1981] Cambridge: Harvard University Press, 2000), 97-121; Howard Brick, *Age of Contradiction: American Thought and Culture in the 1960s* (New York: Twayne, 1998), 1-22; Thomas J. Sugrue, "The Structures of Urban Poverty: The Reorganization of Space and Work in Three Periods of American History," in *The 'Underclass' Debate: View from History,* ed. Michael B. Katz (Princeton: Princeton University Press, 1993), 85-117; 土屋和代「『貧困との

題をめぐるこの時期の言説において特徴的なことは、都市の荒廃と人種問題が一体となって語られた点にある。特に都市部における黒人の劣悪な生活環境は、1960 年代中頃以降に全国で頻発した都市暴動とも重ねて説明された[3)]。

20 世紀アメリカにおける都市の衰退の起源を 1940 年代に求め、その原因を脱工業化による産業構造の転換と人種差別が結合されて、1960 年代後半に爆発したと指摘したのが、北部都市デトロイトを検討したトーマス・スグルーである[4)]。スグルーのこの指摘は、1990 年代後半以降、都市研究や人種関係史に多大な影響を与え、その後の研究は彼の理論を一つの軸として進んでいるとも言える。しかしながら、都市の貧困問題の背景には、1960 年代中頃の産業構造の変化や郊外化以外の要因は考えられないのだろうか。スグルーの研究で不足している視点をあえてあげるとすれば、連邦政府や地方政府などの公的権力が都市問題とどれほど関係してくるのかという視点である。スグルーの研究では公営住宅に関する考察はあるものの、地方政府と連邦政府が 1940 年代後半から都市の復興を目指して行った都市再開発に関する検討は、ほとんどされていない。この都市再開発は黒人コミュニティにどれほどの影響を与えたのだろうか。

戦後の人種関係に都市再開発が与えた影響は多くの研究で指摘されている。

闘い』とコミュニティ組織の発展－1960 年代後半のロサンゼルスの事例を中心に－」『アメリカ史研究』24 号（2001 年）：51‐68 頁。

3) 「貧困の再発見」については以下を参照。土屋、前掲論文；ウィリアム・J・ウィルソン『アメリカのアンダークラス－本当に不利な立場におかれた人々－』（青木秀男監訳、明石書店、1999 年）、275-315 頁；Michael Harrington, *The Other America: Poverty in the United States* (New York: Macmillan, 1962). ハリントンの著書は、当時のアメリカ社会の貧困問題に対する関心を集め、ケネディ大統領にも影響を与えた。

4) Thomas J. Sugrue, *The Origins of the Urban Crisis: Race and Inequality in Postwar Detroit* (Princeton: Princeton University Press, 1996).〔川島正樹訳『アメリカの都市危機と「アンダークラス」－自動車都市デトロイトの戦後史－』（明石書店、2002 年）。〕

国際社会研究（神田外語大学国際社会研究所紀要）第 2 号、2011 年
The Kanda Journal of Global and Area Studies Vol.2, 2011

先行研究としては、都市政策に注目したハーシュとモールの研究やトーマスとリッツドーフが編集した都市計画と黒人コミュニティの関係を考察した事例研究などがあるが、多くの研究が都市政策に重点を置いており、実際に行われた都市再開発を掘り下げて分析したものは少ない。セルフのカリフォルニア州オークランドの研究は、ウエスト・オークランドの再開発について言及しているが、彼の主眼は戦後の黒人コミュニティや黒人の社会運動を第二次世界大戦後のより広いアメリカの政治的・経済的変化と接合させることにある [5)]。これに対して本論文では、都市再開発がいかなる過程を経て開始され、それが黒人コミュニティにどのような影響を与えたのかを検討することで、都市再開発の実態に迫りたい。その場合、連邦政府や地方政府がどのような立場で都市再開発という事業に介入したのかを、様々な立場の動向を具体的な事例をあげながら立体的に検討することが重要になってくる。

そこで本論文では、1940 年代から 50 年代のアメリカの北部都市シカゴに焦点を当て、第二次世界大戦後の都市再開発によって黒人居住区が規定され、ウエスト・サイドに新たな黒人ゲットーが形成されていく過程を考察したい。

---

5) Arnold R. Hirsch and Raymond A. Mohl, eds., *Urban Policy in Twentieth-Century America* (New Brunswick: Rutgers University Press, 1993); June Manning Thomas and Marsha Ritzdorf, eds., *Urban Planning and the African American Community: In the Shadows* (Thousand Oaks: Sage Publications, 1997); Robert O. Self, *American Babylon: Race and the Struggle for Postwar Oakland* (Princeton: Princeton University Press, 2005). 都市再開発に注目したティーフォードの先駆的な研究は大きな流れを提示してくれるが、そこでは人種関係についてはほとんど言及されていない。また、オーサーのボルティモアやグレゴリーのニューヨークの研究の中で、再開発による黒人の強制移転について言及されているが、詳細に検討されているものではない。Jon C. Teaford, *The Rough Road to Renaissance: Urban Revitalization in America, 1940-1985* (Baltimore: Johns Hopkins University Press, 1990); W. Edward Orser, *Blockbusting in Baltimore: The Edmondson Village Story* (Lexington: University Press of Kentucky, 1994); Steven Gregory, *Black Corona: Race and the Politics of Place in an Urban Community* (Princeton: Princeton University Press, 1998).

シカゴはその後の全国的な都市再開発のモデルとなった重要な都市であるが、これまでの研究では圧倒的にシカゴのサウス・サイドが注目されてきた。第二次世界大戦後のシカゴの黒人ゲットーに注目したハーシュの研究でもサウス・サイドが対象となっており、ウエスト・サイドについては議論の枠組みから外れている[6)]。しかし、シカゴの人種関係と都市危機について考えるためには、ウエスト・サイドとサウス・サイドという二つの黒人居住区のつながりを視野に入れた分析が不可欠である。なぜなら、ウエスト・サイドの人種構成や住宅環境は、サウス・サイドの変化に影響を受けながら形成されたからである。そして、両者の関連を理解する一つの鍵が都市再開発であった。本論文では、このウエスト・サイドの黒人コミュニティが、サウス・サイドの都市再開発といかなる連関のもとに形成されたのかについて検討したい。そうすることで、1960 年代後半の都市危機には、産業構造の変化や郊外化以外の要因として、都市再開発という公的権力が絶大な影響を与えていたことを明らかにする。

2. 都市再開発のはじまり

最初にウエスト・サイドとサウス・サイドの位置について確認しておきたい。両コミュニティとも何を基準に考えるかによって判断が分かれるが、本論文では歴史的に労働者階級が多く、住人がウエスト・サイドと自覚していた地域であるニア・ウエスト・サイド地区(28)、イースト・ガーフィールド・パーク地区(27)、ノース・ローンデール地区(29)をウエスト・サイドと捉える。次にサウス・サイドだが、サウス・サイドは伝統的な黒人居住区を想定

6) Arnold R. Hirsch, *Making the Second Ghetto: Race and Housing in Chicago, 1940-1960* ([1983] Chicago: University of Chicago Press, 1998).

国際社会研究（神田外語大学国際社会研究所紀要）第 2 号、2011 年
The Kanda Journal of Global and Area Studies Vol.2, 2011

しており、1940 年代から 60 年代に黒人居住区を中心に黒人たちが捉えていた地域をサウス・サイドとする[7)]。

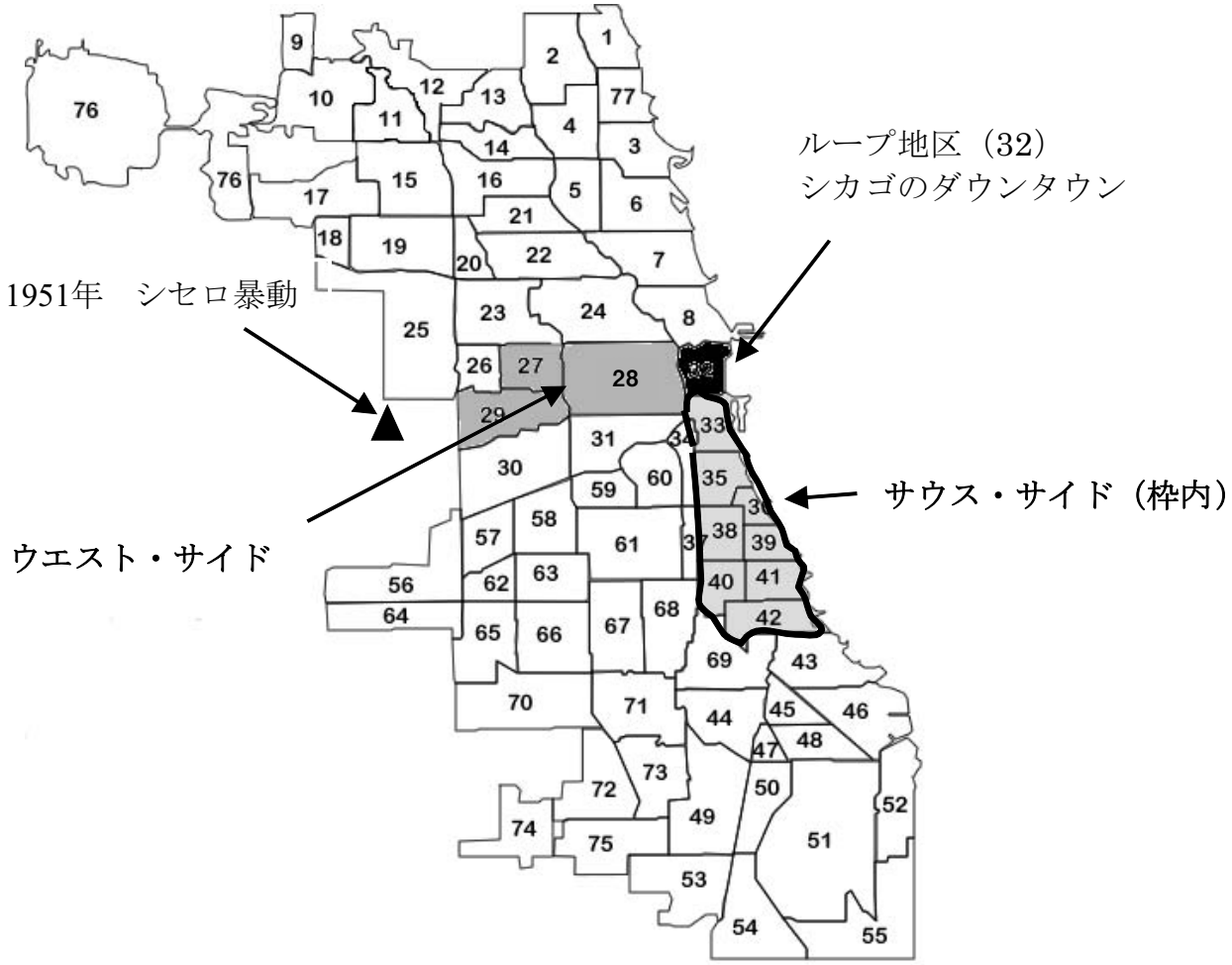
20 世紀のシカゴにおいて、都市を計画的に発展させるという思想の起源は 1909 年の「シカゴ計画（*Plan of Chicago*）」に求めることができる。建築家のダニエル・H・バーンハム（Daniel H. Burnham）とエドワード・H・ベネット（Edward H. Bennett）は、秩序だった都市計画を「シカゴ計画」として発表した。これはミシガン湖の湖畔の改良工事や造園、そして鉄道と道路整備といった交通機関の整理などの包括的な都市計画として、ワシントン DC 以外の都市では初めてのことである。また、「シカゴ計画」は行政府によって依頼されたものではなく、民間の個人による計画書としても初めてのことだと言われている。この「シカゴ計画」によって都市計画の実行に拍車がかかり、1909 年にシカゴ計画委員会（Chicago Plan Commission, 以下 CPC と略記）が創設された[8)]。

---

7) 本論文の分析対象地域であるシカゴでは、20 世紀初頭にシカゴ大学の社会学者が中心となって、都市空間を区分する「コミュニティ・エリア（community area）」という用語を行政単位として規定した。しかし、こうした地区概念とそこに居住する人々が認識する「コミュニティ」は必ずしも一致するわけではない。その為、本論文においては地域を区分する行政単位の用語方法としての「コミュニティ・エリア」を「コミュニティ地区」と表記する。本論文で使用する「コミュニティ」という用語は、ある事象の中でその居住地域の人々によって意識的に構築されていくもとのとして捉える。20 世紀のウエスト・サイドを考察したセリグマンは、ノース・ローンデール地区、イースト・ガーフィールド・パーク地区、ウエスト・ガーフィールド・パーク地区（26）、オースティン地区（25）をウエスト・サイドと捉えているが、本論文では黒人コミュニティの拡大を軸に議論を展開するため、黒人史の文脈で頻繁に言及されるウエスト・サイドを想定する。Amanda I. Seligman, *Block by Block: Neighborhoods and Public Policy on Chicago's West Side* (Chicago: University of Chicago Press, 2005).

8) Joseph P. Schwieterman and Dana M. Caspall, *The Politics of Place: A History of Zoning in Chicago* (Chicago: Lake Claremont Press, 2006), 11-12. もともとシカゴは 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて、ヨーロッパ移民が大量に流入してきた都市であり、ハル・ハウスに代表されるようなセツルメント運動が盛んに行われた地域だった。そのため、都市の住宅環境

図 1　シカゴのサウス・サイドとウエスト・サイド



CPC やシカゴ市当局が都市再開発に向けて具体的に動き始めたのは、大恐慌の時代であった。シカゴのビジネス・エリートは、大恐慌がシカゴのダウンタウン・ループ地区の経済活動を鈍化させ、それに伴って建物などの物理的な状況が悪化することを危惧していた。また、1920 年代以降の郊外化の

を向上させるという意識は比較的高かった。Jane Addams, *Twenty Years at Hull-House* ([1910] Boston: Bedford/ St. Martin's, 1999); 常松洋『ヴィクトリアン・アメリカの社会と政治』（昭和堂、2006 年）、84 - 118 頁。

国際社会研究（神田外語大学国際社会研究所紀要）第 2 号、2011 年
The Kanda Journal of Global and Area Studies Vol.2, 2011

進行によって、都市中心部から郊外へと移る白人中産階級の人口減少を抑えるためにも、シカゴ市当局はダウンタウンの復興を最優先の課題と捉えていた[9]。1939 年には半官半民の団体として、都市住宅計画評議会（the Metropolitan Housing Planning Council, 以下 MHPC と略記）が創設され、シカゴ市当局も都市の復興に向けて積極的に行動を起こし始めた。MHPC の主な任務は、有効的な土地利用に関する計画やシカゴ市の住宅需要の調査であった。MHPC の代表ファード・クレーマー（Ferd Kramer）は、元シカゴ不動産評議会（the Chicago Real Estate Board, 以下 CREB と略記）の代表を務めたこともあり、不動産業界やシカゴのビジネス界と太いパイプを維持していた[10]。

1940 年代に CPC はシカゴ市全体の包括的な住宅調査を行った[11]。この調査結果によると、シカゴ市全体の 10.7 パーセントが「荒廃（blighted）」か「ほぼ荒廃（near-blighted）」の状態にあり、26.6 パーセントが修復や一部取り壊しなど「保護（conservation）」が必要な状態であった[12]。いわゆる行政府によるコミュニティ状態の分類化の始まりである。こうした情報をもとに、1947 年にシカゴ土地整理委員会（Chicago Land Clearance Commission、以下 CLCC と

9) Robert G. Spinney, *City of Big Shoulders: A History of Chicago* (DeKalb: Northern Illinois University Press, 2000), 192-194; Alison Isenberg, *Downtown America: A History of the Place and the People Who Made It* (Chicago: University of Chicago Press, 2004), 124-160.

10) Martin Meyerson and Edward C. Banfield, *Politics, Planning, and the Public Interest: The Case of Public Housing in Chicago* (Glencoe: The Free Press, 1955), 145-147; Hirsch, *Making the Second Ghetto*, 100-134.

11) Chicago Plan Commission, *Housing in Chicago Communities: Community Area Number 1-75, Preliminary Release 1940, Chicago Land Use Survey, Prepared by Work Projects Administration* (Chicago, 1940-1941); Chicago Plan Commission, *Master Plan of Residential Land Use of Chicago* (Chicago: Chicago Plan Commission, 1943). CPC は 1940 年代初頭に複数の調査結果を発表していたが、本論文では WPA 用の *Housing in Chicago Communities* を中心に用いる。

12) CPC, *Master Plan of Residential Land Use of Chicago*, 119-124. この調査では、全てのコミュニティ地区の人口の男女比、平均賃貸料、人種・出身国の割合、衛生状況、住宅の建築年数など様々な項目ごとに丹念に調べている。

略記）が創設され、CLCC は市の老朽化した地域やスラム化した地域を民間企業の協力によって再開発していくことになった[13)]。1930 年代末から 1940 年代は、都市の復興に向けてその基盤を築いた時期と言える。シカゴ市当局は、民間企業の力も借りながら公的機関の委員会を立ち上げ、情報を収集して現状把握に努めていた。その後、都市再開発は法的保護を受けながら、1940 年代後半から実行されていった。

1940 年代後半から 1950 年代初頭にかけて、イリノイ州議会も 1947 年荒廃地区再開発法（Blighted Areas Redevelopment Act of 1947）、1949 年荒廃空閑地開発法（Blighted Vacant Areas Development Act of 1949）、そして 1953 年都市コミュニティ保護法（Urban Community Conservation Act）と立て続けに再開発を促進する一連の立法措置を取った[14)]。連邦レベルでは 1949 年に新たな住宅法が成立した。この住宅法ではスラム・クリアランスに連邦予算がつき（タイトル I）、さらなる公営住宅建設に対する予算も追加された（タイトル III）[15)]。

---

13) Chicago Land Clearance Commission, *Report to Chicagoans, 1947-1952* (Chicago, 1953), folder 275, Chicago Urban League Records (以下 CULR と略記), Special Collections and University Archives, Richard J. Daley Library, University of Illinois at Chicago, Chicago (以下 SCUA-RJDL-UIC と略記).

14) "Blighted Areas Redevelopment Act of 1947," (315 ILCS5) <http://law.justia.com/illinois/codes/chapter30/1443.html>; "Blighted Vacant Areas Development Act of 1949," (315 ILCS 10) < http://law.justia.com/illinois/codes/chapter30/1444.html>; "Urban Community Conservation Act," (315 ILCS 25) <http://law.justia.com/illinois/codes/chapter30/1447.html＞(2009 年 1 月 2 日). 1947 年荒廃地区再開発法は、住宅や土地の荒廃化を防ぐために老朽化した建物の取り壊しや再建築などの整備を目指した。1949 年荒廃空閑地開発法は、荒れ地や未開発の空閑地の整備を目的としたものである。そして 1953 年都市コミュニティ保護法は、コミュニティのスラム化・荒廃化を防ぐために衛生状態の改善、安全性の確保、部分的取り壊しを含めて建築物の物理的維持を行うなどの様々な方法でコミュニティの保護を目指したものである。

15) Housing and Home Finance Agency, *Urban Renewal: Excerpts from Housing Act of 1949 and Related Laws as Amended Through June 30, 1961* (USGPO, 1961), iii-30. 同法は都市再開発に有利な内容だけではなく、タイトル II で連邦住宅局（FHA）のモーゲッジ（住宅ローン）

国際社会研究（神田外語大学国際社会研究所紀要）第 2 号、2011 年
The Kanda Journal of Global and Area Studies Vol.2, 2011

この潤沢な連邦予算を用いて、シカゴ市は大規模な都市再開発が可能となった。これらの法的補助を通して、行政府はまずスラム・クリアランスに向けて土地の収用をしやすい環境を整え、それと同時に保護すべきコミュニティの見極めを行った。ここに、シカゴ市当局とビジネス・エリートが結合し、都市再開発を推進する主体が形成された。全国都市同盟（National Urban League, 以下 NUL と略記）などの黒人団体は、連邦政府や州政府の都市再開発への姿勢を慎重に見守りながらも、スラム・クリアランスと低所得者向けへの住宅提供など、黒人の生活向上に向けて活動していた[16)]。

こうした法的支援も踏まえて、コミュニティが分類化されていくが、その中で言葉の定義が明確になっていった。CLCC によると、「荒廃」とは地域の 50 パーセント以上が 1895 年以前に建てられたもので、住戸の 50 パーセント以上がシカゴ土地利用調査において標準以下の環境と判断された地域を指した。また、住戸の 20 パーセント以上が広範囲の修復が必要か、使用するのに不適切なものを指した[17)]。この CLCC の定義から見えてくるのは、「荒廃」という言葉が、住戸の物理的な状況を強く表していたことである。

しかし、この「荒廃」という言葉には、CLCC が定義するような住宅の状況を表す以上の意味が付与されていった。歴史家ウェンデル・E・プリチェットは、もともと植物病害を言い表していた「荒廃」という言葉を、シカゴ社会学派が社会生活全体を有機体と捉えて、人の流入や建築物の状態なども

の保障を引き受け、タイトル III で田舎の持家主への資金保障もしていたことから、持家促進にも配慮した法案である。

16) National Urban League, “Statement on the Relationship of the Slum Clearance Low-Rent Housing Programs,” (June 25, 1950), 1-5, folder 327, CULR, SCUA-RJDL-UIC.

17) CLCC, “Redevelopment Project No.1: A Report to the Mayor and the City Council of the City of Chicago and to the Illinois State Housing Board,”(March 1949), 20, folder 274, CULR, SCUA-RJDL-UIC.

含めた、都市状況を理解する言葉として援用したという。この意味では、貧しい移民や黒人などのマイノリティの存在が、コミュニティの状況を査定する大きな指標となった。そして、これが土地の資産価値があるかないかという価値基準へとつながり、不動産業者にとっては大変便利な言葉になっていった[18]。プリチェットは、都市再開発を推進するエリートが民間の経済活動への政府介入に反対しつつも、政府の力が再開発には必要であると認識していたと指摘し、それを「公と私のパートナーシップ」と呼んだ[19]。このような「荒廃」の定義と理解をもとに、コミュニティの経済状況や社会的価値が決められた。再開発推進派にとって、コミュニティの資産価値を守るためにも「荒廃」は無くすべきだと捉えられ、マイノリティの移転やその結果によって生じる人種隔離の強化は正当化されていったのである。

3. 第二次世界大戦後のシカゴの状況

20 世紀前半までに、シカゴは鉄鋼業や食肉産業などに代表される、全米でも有数の産業都市に発展していた。そのため、第二次世界大戦期には労働力の需要が高まり、多くの人々がシカゴに流入した。その中でも南部からの黒人の増加は、「大移動」と呼ばれる 19‐20 世紀転換期よりも多かった。シカゴ市の黒人人口は 1930 年に 23 万 3903 人、1940 年に 27 万 7731 人で、人種

18) Wendell E. Pritchett, “The ‘Public Menace’ of Blight: Urban Renewal and the Private Uses of Eminent Domain,” *Yale Law & Policy Review* 21, no.1 (2003): 15-18.

19) *Ibid.*, 5-6. 実際に MHPC の代表ファード・クレーマーは、シカゴの企業に対する講演の中で「公と私のコラボレーション」という表現で、連邦資金を使った民間企業のビジネスがコミュニティを救い、不動産業界に大きな利益をもたらすと述べていた。Ferd Kramer, “Remarks before the Executives’ Service Club of the Sears Y.M.C.A.,” (n.d.), folder December 1954, 1954 undated Items, box 1, Greater Lawndale Conservation Commission Records, 1950-1967, Chicago Historical Museum (以下 GLCCR, CHM と略記).

国際社会研究（神田外語大学国際社会研究所紀要）第 2 号、2011 年
The Kanda Journal of Global and Area Studies Vol.2, 2011

構成比率はそれぞれ 6.9 パーセントと 8.2 パーセントであった。さらに、1950 年になると 49 万 2265 人で人種構成比率が 13.6 パーセントと急増した[20]。このような急激な黒人人口の増加は、就業を巡る人種対立を生み、シカゴにおける人種関係を悪化させた。また、黒人人口の増加は居住区の過密化を促進させて都市の住宅環境にも影響を与え、慢性的な黒人の住宅不足に追い打ちをかけていた[21]。

第二次世界大戦の終結によってアメリカ全体で直面した問題は、ベテラン（退役軍人）の扱いであった。シカゴも例外ではなく、シカゴ住宅局（Chicago Housing Authority, 以下 CHA と略記）の調査によると、1946 年の段階でシカゴでは 10 万人以上のベテランが住宅を探すことになると見積もっていた。1947 年になると、実際には 17 万 5,000 人のベテランが新しい住宅を探しており、そのうち 80 パーセントが他の家族と同居しながら生活していた。スラムの問題とこのベテランの住宅問題は、戦後にシカゴが直面した深刻な問題であり、住宅不足の解消がシカゴの最重要課題となっていた[22]。

---

20) Roger Horowitz, *"Negro and White, Unite and White!": A Social History of Industrial Unionism in Meatpacking, 1930-9*0 (Urbana: University of Illinois Press, 1997); Philip M. Hauser and Evelyn M. Kitagawa, *Local Community Fact Book for Chicago, 1950* (Chicago: Chicago Community Inventory, University of Chicago, 1953), 2, table D. 1890 年の黒人人口は 1 万 4271 人で、1900 年には 3 万 150 人であった。

21) Mayor's Commission on Human Relations, "Race Relations in Chicago," (1945), 7, folder 200, Lea Demarest Taylor Collection (以下 LDTC と略記), SCUA-RJDL-UIC; Harold M. Mayer and Richard C. Wade, *Chicago: Growth of a Metropolitans* (Chicago: University of Chicago Press, 1969), 283-373.

22) Hirsch, *Making the Second Ghetto*, 22-23. シカゴ市は、CHA のプログラムとして 3,400 戸のベテラン向けの一時的な住宅を建設することになった。CHA, "Temporary Housing for Chicago's Veterans," (1948), Municipal Reference Collections, Chicago Public Library, Harold Washington Library (以下 MRC-CPL-HWL と略記).

ベテラン向けの公営住宅でも、黒人ベテランが入居したことで人種暴動に発展した事件もあり、担当機関の CHA はベテラン向けの住宅候補地をめぐっても難しい対応を迫られた[23)]。その中でも 1951 年にウエスト・サイドのシカゴ市境界地域のシセロで起きた暴動は、戦後の住宅をめぐる人種対立の激しさをシカゴ市民に広く知らしめた暴動だった（図 1 参照）。シセロは主にポーランド系とチェコスロバキア系が多く、カトリックのホワイト・エスニックが住む労働者階級の町であった。そこに黒人ベテランのハーヴェイ・クラーク（Harvey Clark）が入居したことで、何千人もの人々が放火や投石を行って黒人入居に反対し、州兵まで出動するほどの暴動に発展した[24)]。シセロ暴動は、戦後に起きたシカゴの人種暴動のうち、初めてテレビでその状況が各家庭に流れたために多くの注目を集め、シカゴにおける住宅をめぐる人種問題の根深さを露呈させた暴動であった。

第二次世界大戦後にシカゴ市当局を悩ましたもう一つの問題は、人口移動の加速化であった。その中でも都市部から郊外へと移動する白人中産階級をいかに食い止めるかということが、シカゴ市当局の喫緊の課題であった[25)]。

---

23) Hirsch, *Making the Second Ghetto*; Chicago Commission on Human Relations（以下CCHRと略記）, “Memorandum on Airport Homes,” folder 286, CULR, SCUA-RJDL-UIC; CCHR, “Memorandum on Fernwood Park Homes,” (n.d.), folder 709, CULR, SCUA-RJDL-UIC; “Cicero Riot,” (September 19, 1951), American Friends Service Committee Records (以下AFSCRと略記), SCUA-RJDL-UIC; 拙稿「トランブル・パーク・ホームズ騒動と『共同体の暴力』」『アメリカ史研究』28 号（2005 年）: 92-110 頁。CHAのベテラン向けの一時的な住宅で起きたエアーポート・ホームズ暴動（1946 年）、ファーンウッド暴動（1947 年）、CHAの公営住宅のトランブル・パーク・ホームズ暴動（1953 年）、民間住宅の入居を巡るシセロ暴動（1951 年）には一つの共通点があり、それはこれら全ての人種暴動が黒人ベテランの入居を巡ったトラブルだった。

24) Charles Abrams, “The Time Bomb That Exploded in Cicero,” (November 1951); William Gremley, “The Scandal of Cicero”; Daniel M. Cantwell, “Prospect on the Cicero Riot,” all in folder 1, box 70, AFSCR, SCUA-RJDL-UIC.

25) Adam Cohen and Elizabeth Taylor, *American Pharaoh, Mayor Richard J. Daley: His Battle for Chicago and the Nation* (New York: Back Bay Books, 2000), 164-165.

国際社会研究（神田外語大学国際社会研究所紀要）第 2 号、 2011 年
The Kanda Journal of Global and Area Studies Vol.2, 2011

表 1 は 1940 年から 1956 年までのシカゴ市と郊外の住戸数とその割合を表したものである。1946 年以降、住戸配分が郊外で増えていることが見てとれる[26]。シカゴ市当局が白人中産階級の流失を必死で食い止めようとした最大の理由は、郊外化による税収の減少を恐れたからであった。シカゴ市当局はダウンタウン近辺が企業にとって有益になるように整備し、近隣の住宅環境を整えることに重点を置く必要があった。都市再開発は白人の郊外化の流れを止める絶好の機会となったのである。

表 1　シカゴ市と郊外の住戸数と割合

	シカゴ市		郊外		非法人地域	
年	数	割合（%）	数	割合（%）	数	割合（%）
1940	3,319	30	5,892	55	1,669	15
1941	5,403	32	8,017	48	3,425	20
1942	4,453	43	3,833	37	2,107	20
1943	3,359	54	2,190	33	876	13
1944	5,090	59	2,600	30	954	11
1945	5,359	48	4,372	39	1,399	13
1946	5,815	32	8,612	48	3,621	20
1947	5,968	24	11,463	46	7,313	30
1948	6,079	27	11,029	49	5,548	24
1949	9,813	35	13,330	48	4,633	17
1950	17,607	41	20,933	48	4,813	11
1951	11,591	34	17,619	52	4,760	14
1952	10,836	32	18,268	53	5,046	15
1953	11,835	29	21,723	54	7,012	17
1954	13,103	28	26,025	55	8,134	17
1955	16,023	30	28,638	54	8,157	16
1956	14,069	29	26,691	54	8,316	17

出典 :"Table1 Number and Percentage Distribution of Dwelling Units in the City of Chicago and the Chicago Metropolitan Area, 1920 through 1956," in City of Chicago, "Residential Construction and Related Date," (Chicago, 1956), 9, folder 398, Near West Side Community Council Records, SCUA-RJDL-UICより作成。

このように、第二次世界大戦後のシカゴでは、都市の荒廃と黒人やベテランによる人口増加によってひき起こった住宅不足の問題、そして郊外化の加速など、問題点が重なり合っていく中で再開発が計画された。そして 1940 年代後半からシカゴでは実際に都市再開発プロジェクトが始まっていくのである。

4. サウス・サイドの都市再開発

シカゴにおける都市再開発は、ダウンタウンの繁栄と安定した居住地域という二つの軸で考えることが重要である。歴史家アマンダ・セリグマンは、

26) City of Chicago, “Residential Construction and Related Date,” (Chicago, 1956), 9, folder 398, Near West Side Community Council Records（以下 NWSCCR と略記）, SCUA-RJDL-UIC.

シカゴの都市再開発の特徴として以下の 4 点をあげている。第一に、シカゴ大学がハイド・パーク地区の再開発に州法を用いて影響力を与えたこと。第二に、シカゴ市当局がダウンタウンのループ地区の衰退を防ぐために再開発を利用して、ループ近辺の荒廃した地域を一掃したこと。第三に、ダウンタウンを市のブローカーにとって魅力的にするために、公的機関の建物をループ近辺に建てたこと。第四に、シカゴ市当局が高層の公営住宅をダウンタウンから離れた場所に建設し、そこにスラム住人を住ませたことである[27)]。これらは、第二次世界大戦後にシカゴが直面した問題を全て網羅していることがわかる。すなわち、衰退する地域の不動産価値を高めるためにも都市再開発を用いて荒廃地域を一掃し、ループ地区の商業的価値を高めることで、シカゴのビジネスと住民を確保した。同時に、黒人貧困層など「望まれない住人」を公営住宅にとどめることで、白人コミュニティへの黒人流入を最小限に食い止めようとしたのである。

シカゴの都市再開発はサウス・サイドから始まり、シカゴ大学はその象徴的な存在となっていた。シカゴ大学のあるハイド・パーク地区（41）では、黒人人口が増加したことで大学近辺の人種構成が急速に変化した。黒人コミュニティと隣接しているシカゴ大学は、黒人コミュニティの拡大による白人住人の流出を恐れた。そのため、シカゴ大学は都市コミュニティ保護法を用いて大学近隣への黒人流入を止めようとした[28)]。ハイド・パーク地域の再開発で中心的な役割を担ったシカゴ大学のジュリアン・レビ（Julian H. Levi）は、ハイド・パークに移り住んできたばかりの黒人貧困層が最も大きなダメージを受けることを認めた上で、それでも再開発を行わないとハイド・パークの

27) Seligman, *Block by Block*, 72.

28) Hirsch, *Making the Second Ghetto*, 135-170; Cohen and Taylor, *American Pharaoh,* 208-212.

国際社会研究（神田外語大学国際社会研究所紀要）第 2 号、2011 年
The Kanda Journal of Global and Area Studies Vol.2, 2011

衰退を防ぐことができないとして再開発を推進した[29)]。

また、ダウンタウンの南のニア・サウス・サイド地区（33）では老朽化した建物が多く、マイケル・リース病院、集合住宅地のレイク・メドウズ、イリノイ工科大学などの再開発事業が行われた。これらの都市再開発は住宅環境を大きく改善させ、白人と黒人の上流・中産階級が新たに入居することで人種統合されたコミュニティを形成した。しかし、この地域は特に黒人住人が多く、再開発された地域に元の住人はほとんど誰も入居できなかった。その結果、これまで荒廃地域に住まざるを得なかった黒人貧困層が移転させられた[30)]。都市再開発によって、確かにサウス・サイドのコミュニティは整備され、一定の人種統合が成功した地域も現れた。しかし、ハイド・パーク地区のように、新たに入居してきた黒人上流・中産階級に対する批判も他の黒人から起きており、多くの貧しい黒人は強制移転で移動しなければならなかったのである[31)]。

都市再開発で最も論争的な問題は、再開発予定地の住人が強制的に移転しなければならなかったことである。賃貸か持家かにかかわらず、移転しなければならない住人の中にはやっとの思いで住宅を手に入れた人も多い。都市再開発の杜撰な点は、それを統括する公的機関がなかったために、移転する

29) Julian H. Levi, “Crucial Issues: Urban Renewal,” (September 16, 1958), 1-10, folder 2, box 2, University Public Relations Papers on Urban Renewal, Special Collections Center, Regenstein Library, University of Chicago、(以下 UPRPUR, SCC-RL-UC と略記); Citizens Committee to Fight Slums, “Housing Action Report of 1954,” (February 1954), 1-15, folder 115, box 11, Metropolitan Planning Council Records (以下 MPCR と略記), SCUA-RJDL-UIC.

30) City of Chicago, *Housing and Urban Renewal Progress Report* (June 30, 1964), 20, folder 51, box 4, The Immigrants’ Protection League Papers, Supplement I (以下 IPLP と略記), SCUA-RJDL-UIC; “The Lake Meadows Shopper,” folder 10, Industrial Areas Foundation Records (以下 IAFR と略記), SCUA-RJDL-UIC; Mayer and Wade, *Chicago*, 378-386.

31) Peter H. Rossi and Robert A. Dentler, *The Politics of Urban Renewal: The Chicago Findings* (New York: The Free Press of Glencoe, Inc., 1961).

人の人数、人種や性別、収入などの公式な記録がなく、移転させられた先の追跡調査も行われていなかったことである。そのため、全国都市同盟シカゴ支部（Chicago Urban League, 以下 CUL と略記）や CHA などの独自の調査で人数を把握するしかなかった[32)]。

それでは、実際はどのくらいの人数が強制移転させられたのだろうか。CUL の 1948 年から 56 年の調査によると、サウス・サイドの 4 つの再開発だけで 8 年間に 5537 家族、独身 1790 人もの人々が強制移転させられた[33)]。さらに、この時期の再開発によって強制移転させられた人々の 67 パーセントが黒人であり、58 年から 59 年の再開発によって 13 万 1,000 人の人々が強制移転させられ、その内黒人は 8 万 6,000 人になるという見積もりだった[34)]。表 2 は CHA の調査をもとに作成した 1948 年から 64 年までの都市再開発に関連したプロジェクトによって、強制

表 2　強制移転によって移動した家族数、1948-1964 年

年	全ての活動	都市再開発			高速道路	公営住宅	コード規制	その他
		合計	再開発	保護				
合計	**49,222**	**13,393**	**10,145**	**3,248**	**13,586**	**12,079**	**2,068**	**8,096**
1948	712	-	-	-	181	190	-	341
1949	1,225	96	96	-	409	53	-	667
1950	2,597	1,068	1,068	-	803	363	-	363
1951	2,838	1,220	1,220	-	528	583	-	507
1952	3,361	535	535	-	770	1,398	83	575
1953	3,543	364	364	-	962	1,358	-	859
1954	3,205	182	182	-	516	2,051	10	446
1955	3,675	406	406	-	707	1,966	15	581
1956	2,672	671	671	-	1,174	475	70	282
1957	2,379	699	699	-	1,001	370	51	258
1958	4,458	470	470	-	2,093	1,015	178	702
1959	5,036	1,365	1,363	2	2,455	797	109	310
1960	3,964	1,835	1,107	728	903	607	140	479
1961	3,869	2,167	734	1,433	355	352	466	529
1962	3,146	1,299	468	831	410	196	504	737
1963	2,017	666	566	100	318	261	312	460

出典："Number of Families Relocated by Type of Activity, January 1948- June 1964," in City of Chicago, *Housing and Urban Renewal Progress Report* (June 30, 1964), 13, folder 51, box 4, IPLP, Supplement I, SCUA-RJDL-UIC.

32) CUL, "American Institute of Planners," (March 18, 1958), VII-4, folder 13, IAFR, SCUA-RJDL-UIC; Seligman, *Block by Block*, 32-33.

33) CUL, "Urban Renewal and the Negro in Chicago," (June 18, 1958), folder 421, IAFR, SCUA-RJDL-UIC. ハイド・パークの再開発では 357 家族と独身 295 人、マイケル・リース病院では 367 家族と独身 122 人、レイク・メドウズでは 3513 家族と独身 944 人、そしてイリノイ工科大学では 1300 家族、独身 429 人が移転させられた。

34) CUL, "Selected Aspects of Urban Renewal and the Negro in Chicago," (May 16, 1958), 3, folder 421, IAFR, SCUA-RJDL-UIC. これが 1963 年になると強制移転の 80 パーセントが非白人であると『シカゴ・ディフェンダー』は伝えている。*Chicago Defender*, January 8, 1963.

国際社会研究（神田外語大学国際社会研究所紀要）第 2 号、 2011 年
The Kanda Journal of Global and Area Studies Vol.2, 2011

移転させられた家族数を表したものである。シカゴ市全体で、16 年間で 4 万 9,222 家族が都市再開発関連事業で移転させられた。さらに 1960 年の家族構成に関する調査では、強制移転の家庭が 4.5 人とシカゴ市平均の 3.1 人よりも多いことが判明した[35)]。こうした数字を見ていくと、都市再開発それ自体がいかに人々の生活環境を変え、特に黒人居住区に多大な影響を与えていたかが浮き彫りになる。そして、この強制移転させられた黒人の移動がウエスト・サイドに影響を与えていくことになるのである。

5. ウエスト・サイドの都市再開発

ウエスト・サイドにおける都市再開発は、サウス・サイドよりも必要な事業であったかもしれない。特にニア・ウエスト・サイド地区は住宅の老朽化が進んでいた。表 3 はウエスト・サイドの住戸数と建築年を年代別に表したものである。ダウンタウンに近いニア・ウエスト・サイド地区は、1885 年以前から 1894 年までの 19 世紀に建築されたものが 9 割近い 89.8 パーセントも占めている。イースト・ガーフィールド・パーク地区は 1885 年から 1914 年の 30 年間で 79.3

表 3　ウエスト・サイドの住戸数と建築年

コミュニティ名	ニア・ウエスト・サイド		イースト・ガーフィールド・パーク		ノース・ローンデール	
建築年	住戸数	割合（%）	住戸数	割合（%）	住戸数	割合（%）
1885年以前	5,074	41.4	889	15.3	321	1.2
1885-1894	5,938	48.4	2,181	37.6	2.833	10.8
1895-1904	842	6.9	1,591	27.4	7,347	27.9
1905-1914	289	2.4	826	14.3	9,233	35.1
1915-1919	45	0.4	104	1.8	1,458	5.5
1920-1924	16	0.1	118	2	2,118	8
1925-1929	29	0.2	86	1.5	2,988	11.3
1930-1934	11	0.1	3	0.1	34	0.1
1935-1939	15	0.1	1	0	12	0.1
合計	12,259	100	5,799	100	26,344	100

出典："Year Built," community number 27-30, in CPC, *Housing in Chicago Communities*, 20, 21, 32 より作成。

35) City of Chicago, *Housing and Urban Renewal Progress Report* (June 30, 1964), 13, folder 51, box 4, IPLP, SCUA-RJDL-UIC; Evelyn M. Kitagawa and Karl E. Taeuber, *Local Community Fact Book of Chicago Metropolitan Area 1960* (Chicago: Chicago Community Inventory, University of Chicago, 1963), 3; Community Conservation Board, “Rehousing Families Displaced by Governmental Action in Chicago, 1960,”(March 1960), 7, MRC-CPL-HWL.

パーセントを占めており、ノース・ローンデール地区は 1885 年から 1914 年の 30 年間で 73.8 パーセントを占めている[36]。この建築年数が微妙にずれている点は、各コミュニティの位置関係が影響している。すなわち、ニア・ウエスト・サイド地区（28）からイースト・ガーフィールド・パーク地区（27）、そしてノース・ローンデール地区（29）とシカゴ中心部のループ地区からそれぞれ西へ都市の発展とともに人々も移動し、住宅建築も徐々に西へと拡大したことを表している。

シカゴのダウンタウン近隣の住宅は、ヨーロッパからの移民や南部からの黒人の「大移動」が起こった 1880 年代から 1900 年代初頭に盛んに建設された。しかし、20 世紀前半は第一次世界大戦と大恐慌という社会的変化の中で、住宅は積極的に建築されなかった。例えば前述したニア・ウエスト・サイド地区は、住宅のほとんどが 19 世紀に建築されたものであり、20 世紀初頭に多くの移民が生活を送っていた地域であった。経済的に成功した移民はより良い環境のコミュニティに移り、そこにまた新たな移民が入居してくるというサイクルのため、居住環境はあまり整備されずにいた[37]。1962 年のローカル新聞『シカゴ・アメリカ』で、ニア・ウエスト・サイド地区に 38 年間住んでいる住人は、「都市再開発によって何千人もの家を失った人々がここに移動してきたが、それにより荒廃する地域が増加したよ。住民は資産価値の低下をなんとか食い止めようとしていたが、最近では都市計画立案者も諦めてし

36) CPC, *Housing in Chicago Communities*, 20, 21, 32.

37) "Near West Side of Chicago, Survey of Study," (1939), folder 7, box 91, Chicago Area Project Records, 1910-1972, CHM; CLCC, *Report for 1951* (1951), 14-15, folder 204, NWSCCR, SCUA-RJDL-UIC; Thomas A. Guglielmo, *White on Arrival: Italians, Race, Color, and Power in Chicago, 1890-1945* (New York: Oxford University Press, 2003); Joseph C. Bigott, *From Cottage to Bungalow: Houses and the Working Class in Metropolitan Chicago, 1869-1929* (Chicago: Chicago University Press, 2001).

国際社会研究（神田外語大学国際社会研究所紀要）第 2 号、2011 年
The Kanda Journal of Global and Area Studies Vol.2, 2011

まったよ」と嘆いていた[38]。同紙によると、第二次世界大戦後にシカゴを支えていた産業の 300 以上の工場がシカゴ市から消えてしまう中で、ダウンタウンに近いニア・ウエスト・サイド地区の再開発は市当局だけでなく、住人にとっても望まれていた。しかし、この再開発は実際にはニア・ウエスト・サイド地区の住人が期待したような変化をもたらさなかったのである。

1950 年代の一連の都市再開発の文脈の中で、ウエスト・サイドのコミュニティが直面した問題は新たな人の流入である。強制移転による移住者の中でも、低所得者の住宅の対応を任されたのが CHA であった。CHA はこうした人々に対応するために、通称「コート（court）」と呼ばれる強制移転者向けの公営住宅を 8 つ建設した[39]。8 つの内のメイプルウッド・コート（Maplewood Courts）、ハリソン・コート（Harrison Courts）、オグデン・コート（Ogden Courts）、そしてルーミス・コート（Loomis Courts）の 4 つの公営住宅が 1950 年から 1953 年の間にウエスト・サイドに建設された。それらの中でもメイプルウッド、ハリソン、ルーミスの 3 つの公営住宅には再開発によって移転を余儀なくされた黒人を引き寄せた。こうした公営住宅にはサウス・サイドとウエスト・サイドの再開発によって他に住むことができない低所得者の黒人が入居した[40]。

この時期の CHA の住宅建築では、新しい「実験」として高層住宅（high-rise）が初めて取り入れられた。エレベーター付きの 7 階建てのルーミス・コートは、多くの入居が可能となり、建物と建物をつなぐ広いギャラリーを用いた

38) *Chicago American*, May 29, 1962, folder 418, IAFR, SCUA-RJDL-UIC.

39) “Recreation, Health, and Welfare at Chicago Housing Authority Projects, 1956-1957,” (July 31, 1957), folder 277, box 23, MPCR, SCUA-RJDL-UIC; CHA, “Memorandum on Relocation,” (July 1948), 34-35; CHA, “Kit of Tools for Slum Clearance,” (1947), MRC-CPL-HWL.

40) CHA, “Maplewood Courts,” (June 1950), CPL-HWL-MRC; CHA, “Harrison Courts, Relocation Housing for Low-Income Families,” (August 1950), CPL-HWL-MRC; Devereux Jr. Bowly, *The Poorhouse: Subsidized Housing Chicago, 1895-1976* (Carbondale: Southern Illinois University Press, 1978), 60-72.

デザインは建築物としても評価され、CHA も住宅不足の解消に果たす高層住宅の役割に期待した。また、高層にすることで空いたスペースに子供が遊べる遊具が設置可能となり、CHA は高層化を好意的に捉えていた。しかし、実際に公営住宅での生活が始まると、この高層住宅のデザインに対する称賛は批判へと変化した。公営住宅内でのいたずらやエレベーターの故障といったヴァンダリズム（破壊主義）が若者によって起こり始め、幼い子供を持つ母親は子供の安全を心配するようになった。当時、公営住宅の人種統合を目指していた CHA の行政長官エリザベス・ウッド（Elizabeth Wood）は、子供のいる家族には高層住宅が負担であると公然と批判するようになった[41]。CHA は当初から空閑地による公営住宅の建築を希望していたが、シカゴ市議会からの許可を得られず、黒人居住区に高層の公営住宅を建築せざるを得なかった。CHA 議長ロバート・テイラー（Robert R. Taylor）も、黒人向けの公営住宅が不足していることを MHPC の代表クレーマーに訴えたが、考慮してもらえなかったのである[42]。

ウエスト・サイドの公営住宅建設で最も重要な点は、この高層住宅という新たな建築スタイルの導入であり、これがシカゴの公営住宅事業の転換期となったことである。この高層住宅は、1950 年代後半以降のシカゴの黒人居住区を対象にした公営住宅に積極的に採用された。批判の対象となる公営住宅の代表的なものは、最大 19 階建ての高層住宅を含むニア・ノース・サイド地

41) D. Bradford Hunt, “Understanding Chicago's High-Rise Public Housing Disaster,” in *Chicago Architecture: Histories, Revisions, and Alternatives*, eds., Charles Waldheim and Katerina Reudi Ray (Chicago: University of Chicago Press, 2005), 305-307; Elizabeth Wood, “The Case for the Low Apartment,” *Architectural Forum* (January 1952): 100-106.

42) “To Robert Taylor from Ferd Kramer, May 19, 1944”; “To Ferd Kramer from Robert Taylor, May 24, 1944,” both in MPCR, SCUA-RJDL-UIC; Hunt, “Understanding Chicago's High-Rise Public Housing Disaster,” 306.

国際社会研究（神田外語大学国際社会研究所紀要）第 2 号、2011 年
The Kanda Journal of Global and Area Studies Vol.2, 2011

区のカブリニ・グリーン（Cabrini-Green）や、サウス・サイドの悪名高い 16 階建てのロバート・テイラー・ホームズ（Robert Taylor Homes）である[43]。高層住宅の導入により、シカゴでは 1960 年代以降に黒人低所得者を公営住宅に留めることで貧困の集中を招き、公営住宅はスラムの象徴として捉えられるようになった。このように、黒人向けの高層の公営住宅の拡大は、都市再開発の文脈の中で起きていたのである。

サウス・サイドの都市再開発と同様に、ウエスト・サイドにおいても多くの黒人が強制移転に対する不満を抱いていた。住宅に関してニア・ウエスト・サイド地区の黒人 500 人に聞き取り調査を行ったニア・ウエスト・サイドコミュニティ委員会の記録によると、500 人中 270 人が現在の住宅から移動することへの不安を抱えており、半数以上の 275 人が住宅不足によって家を見つけられないことを懸念していた[44]。CHA の概算によると、1950 年にウエスト・サイドの再開発によって強制移転しなければならない住人 574 家族のうち、5 分の 3 はウエスト・サイドの公営住宅か近隣の民間住宅に移動した[45]。これまでの黒人コミュニティの拡大と同じように、黒人人口の増加に対して拒否反応を示す白人住人は、ウエスト・サイドからさらに移動した[46]。

それでは、ウエスト・サイドの人種構成比率はどのように変化したのであろうか。表 4 はウエスト・サイドの 3 つのコミュニティ地区の 1930 年から 70 年までの人種構成の変化を表したものである。ニア・ウエスト・サイド地

43) 公営住宅の建築スタイルの変遷と都市政策に注目した研究としては以下を参照。D. Bradford Hunt, *Blueprint for Disaster: The Unraveling of Chicago Public Housing* (Chicago: University of Chicago, 2009).

44) “Housing Survey,” (n.d.), 1-3, folder 399, NWSCCR, SCUA-RJDL-UIC.

45) CHA, *CHA Monthly Report*, (January 1951), 8-9.

46) Otis Dudley Duncan and Beverly Duncan, *The Negro Population of Chicago: A Study of Residential Succession* (Chicago: University of Chicago Press, 1957).

区は 50 年間で徐々に黒人人口が増えているが、イースト・ガーフィールド・パーク地区とノース・ローンデール地区は 50 年代から 60 年代にかけて変化しているのがわかる。特にノース・ローンデール地区は急激に変化している。

表 4　ウエスト・サイドの人種割合の変化

コミュニティ名	ニア・ウエスト・サイド		イースト・ガーフィールド・パーク		ノース・ローンデール	
年 / 割合(%)	白人	黒人	白人	黒人	白人	黒人
1930	78.4	16.6	96.8	2.9	99.6	0.3
1940	80.8	18.9	95.4	4.5	99.6	0.4
1950	58.5	40.9	82.9	16.7	86.7	13.1
1960	45.6	53.8	38	61.5	8.6	91.1
1970	25.2	72.2	1.7	98	3	96.4

出典：The Chicago Fact Book Consortium, ed., *Local Community Fact Book Chicago Metropolitan Area: Based on the 1970 and 1980 Censuses* (Chicago: Chicago Review Press, 1984), 73, 76, 80より作成。

19‐20 世紀転換期のノース・ローンデール地区は、近隣の工場で働く労働者の町として発展した。その中でもユダヤ系が多数を占めており、同地区はユダヤ系の友愛団体の設立やシナゴークの建設など、ユダヤ系色の強いコミュニティを形成していた[47]。しかし、戦後に郊外化が促進される中での黒人人口の増加は、ユダヤ系の郊外化の流れを加速させ、ユダヤ系の多くがノース・ローンデール地区から出ていった。ユダヤ系の移動の特徴は単なる人の移動ではなく、ユダヤ系独自の団体やシナゴークなど文化的施設全てが移動してしまうことにある[48]。その空いた居住区に多数の黒人が移り住んだのであった。

ではなぜ多くの黒人がノース・ローンデール地区に移り住んだのだろうか。まずは、黒人が入居できる地域は現実的に限られており、同地区にはもともと黒人コミュニティがあったことが大きい。また、住宅の建築年数が古くな

47) Irving Cutler, *Jews of Chicago: From Shtetl to Subur*b (Urbana: University of Illinois Press, 1996), 209-233.

48) Lowell W. Livezey and Mark Bouman, “Religious Geography,” in *The Encyclopedia of Chicago,* eds. James Grossman, Ann Durkin Keating, and Jan Reiff (Chicago: University of Chicago Press, 2004), 690-696. ユダヤ系コミュニティの移動性について以下を参照。Gerald Gamm, *Urban Exodus: Why the Jews Left Boston and the Catholics Stayed* (Cambridge: Harvard University Press, 1999).

国際社会研究（神田外語大学国際社会研究所紀要）第 2 号、2011 年
The Kanda Journal of Global and Area Studies Vol.2, 2011

く、あまり老朽化が進んでいなかったこともあげられる[49]。黒人が住める地域であることに加えて、こうした好条件が黒人を引き寄せた。さらに、ウエスト・サイド全体に言える最も重要な特徴として、黒人の白人コミュニティへの進出に対する暴力的抵抗が少なかったことがあげられる。サウス・サイドの黒人コミュニティでは、特に新たに黒人が移動する人種の境界線地域では、人種を理由にした放火や投石といった多くの暴力的な騒動がホワイト・エスニックを中心に行われていた。もちろん、人種対立はウエスト・サイドでも起こっていたが、その頻度はサウス・サイドに比べてはるかに少なかった[50]。その原因の一つとして、サウス・サイドで積極的に黒人入居者を排除していたネイバフッド向上協会のような団体や、黒人の入居を制限する制限的不動産約款（Restrictive Covenants）がウエスト・サイドにはほとんど無かったからである[51]。こうした暴力の相対的な少なさは、黒人流入を促進させたのである。

ノース・ローンデール地区には、サウス・サイドやニア・ウエスト・サイド地区などの再開発によって強制移転させられた黒人が多く流入したと考えられる。前述したように、シカゴの都市再開発は公的な調査を行っていなかったので、強制移転した黒人の移動先や正確な数字は把握できない。しかし、

---

49) “Community Area 29-North Lawndale,” (October 1955), 2, folder October-December 1955, box 2, GLCCR, CHM. 同地の 68 パーセントが 1900 年から 20 年代の建築であまり老朽化しておらず、1900 年以前の建築物は市全体が 30 パーセントに対して同地は 22 パーセントであった。また、住宅の賃貸料も黒人が高めに払っているとはいえ、他の地域より比較的安かった。

50) “To Secure These Rights: The Right to Safety and Security of the Person in Chicago,” folder 172, NWSCCR, SCUA-RJDL-UIC; CCHR, “Profiles on Present Racial Tension Areas,” (August 1957), 1-14, folder August 1957, box 4, GLCCR, CHM.

51) Zorita Wise Mikva, “The Neighborhood Improvement Association: A Counter-Force to the Expansion of Chicago's Negro Population,” (MA Thesis, University of Chicago, 1951).

ある調査によると、1960 年に同地区の住人の半数以上が、5 年前にはシカゴ市の同地区以外に住んでいたという[52]。1960 年のノース・ローンデール地区の 9 割が黒人であることから、新たに流入してきた人々の多くが黒人である。また、居住区が限定されていたシカゴの黒人の状況を考慮すると、多くがサウス・サイドや近隣のニア・ウエスト・サイド地区から移り住んできたと考えられる。この時期における多数の黒人の人口移動は、かなりの部分で都市再開発が影響を与えていたと言えるだろう。

再開発による移転者の流入以外に、ウエスト・サイドの黒人人口の増加のもう一つの要因は、南部からの黒人移住者の流入である。1955 年以降のウエスト・サイドの黒人の多くは、南部、なかでもミシシッピ州からの移住者であったと言われている。1950 年代から 1960 年代にかけて、都市再開発による移転者と南部の黒人移住者によって、ウエスト・サイドは第二次世界大戦後の新たな黒人居住区として形成されていった[53]。

しかし黒人人口が増加した反面、ノース・ローンデール地区では、黒人の流入に反対してコミュニティから出ていく白人も増えてしまったのである。実際、リベラル派のユダヤ系不動産業者は黒人に住宅を提供したが、皮肉なことに、それによって黒人人口が増えたことで多くのユダヤ系が移動することを選んだ。ユダヤ系不動産業者は、黒人のために住宅を提供すると白人から「ブロック・バスター」と罵られ、住宅提供を拒否すると黒人から「人種差別主義者」と非難されていたのである[54]。

---

52) Seligman, *Block by Block*, 32-34.

53) “Community Area 29-North Lawndale”; St. Clair Drake and Horace R. Cayton, *Black Metropolis: A Study of Negro Life in a Northern City* ([1945] Chicago: University of Chicago Press, 1993), 819; Alphine Wade Jefferson, “Housing Discrimination and Community Response in North Lawndale (Chicago), Illinois, 1948-1978,” (Ph. D. diss., Duke University, 1979), 72-74.

54) Beryl Satter, *Family Properties: Race, Real Estate, and the Exploitation of Black Urban*

国際社会研究（神田外語大学国際社会研究所紀要）第 2 号、2011 年
The Kanda Journal of Global and Area Studies Vol.2, 2011

ウエスト・サイドの黒人コミュニティは、1950 年代の黒人人口の増加を受けて、様々な活動を展開した。例えば、ブロック・クラブを創設してコミュニティの住人との円滑な人間関係を形成するための会合を開き、子供の学校教育について教育委員会や地元の学校と会議を重ねる等の活動がなされた。特に公立学校の人種隔離の問題は深刻であり、1957 年以降に人種隔離撤廃運動が活発化し、1960 年代に大きな運動を引き起こした。また、地元に根付いた黒人指導者の育成にも力を入れて、黒人の経済的、精神的発展を目指すことで、黒人が都市生活に適応するような活動を取り入れていた。そうすることで、「望ましい市民」として認められるように努力していた。しかし、そのあまりにも急激に黒人人口が増える状況に対して、1950 年代のコミュニティ団体や CUL などの黒人団体は、居住環境を改善して黒人コミュニティを向上させるという課題にうまく対応できなかったと言えるだろう[55]。

このような人種関係の向上を目指した活動が盛んになった 1950 年代後半に、ウエスト・サイドの再開発が本格的に始まった。具体的には、ループ地区からウエスト・サイドを通る高速道路（Congress Expressway）が 1960 年に一部完成し、教育的需要を満たすと同時に荒廃した地域を一掃することが狙いだったイリノイ大学シカゴ校が 1965 年に開校した。都市再開発そのものに対する批判は 1960 年代から増えていくが、ウエスト・サイドの再開発が促進さ

America (New York: Metropolitan Books, 2009), 8; “Housing and Population in the Near West Side Area Lying South of Congress Expressway,” (n.d.), 3, folder 206, NWSCCR, SCUA-RJDL-UIC.

55) “Annual Report of West Side Activities,” folder 296; “Re: Lawndale Area Situation, November 11, 1949,” 1-4, folder 271; R. E. Williams, “January 12, 1954, 1954 Program, West Side Improvement Council,” folder 179; “Quarterly Report of the Women’s Division, January 1, 1943-March 31, 1943,” 1-2, folder 389, all in CULR, SCUA-RJDL-UIC; 拙稿「北部都市における公立学校の人種隔離撤廃運動－一九六〇年代のシカゴを事例にして－」『一橋社会科学』5 号（2008 年）：213-236 頁。

れた 1950 年代後半から、黒人指導者は都市再開発を「黒人排除」であるとして批判し始めた[56]。戦後に拡大したウエスト・サイドの黒人住人は、さらに拡大していく都市再開発に翻弄されながらもコミュニティを築いていくことになった。したがって、その後の公民権運動の時代を迎える中で、ウエスト・サイドの黒人コミュニティが住宅環境の改善を重要な問題として取り組んだことは、当然の帰結であったと言えよう。

6. おわりに

以上見てきたように、ウエスト・サイドの黒人コミュニティは、都市再開発の影響を多分に受けながら形成されてきた。サウス・サイドの都市再開発は、人種統合された中産階級的なコミュニティを形成することに成功した。しかし、その地域の多くの元住人がその恩恵を受けることができず、特に黒人低所得層は強制移転によって移動せざるを得なかった。そうした黒人の中には、ウエスト・サイドへの移動を余儀なくされた人もいたのである。都市再開発という公共政策に影響を受けながら形成されたウエスト・サイドは、同じ黒人コミュニティでもサウス・サイドとは異なる性質のものであった。すなわちウエスト・サイドでは、市当局が再開発を用いて住居を規定していく中で、家を失ったサウス・サイドから移転させられた黒人と、南部から移住してきて都市生活にまだ適応できていない南部黒人が混合したコミュニティを形成していたのである。

1960 年代中頃に貧困問題が浮上するはるか以前、産業構造の転換や郊外化

56) Seligman, *Block by Block*, 99-118; *Chicago Defender,* July 11, 1958, October 18, 1962, June 11, 1962, July 19, 1962, January 8, 1963; *Chicago Sun Times,* May 16, July 4, 1958, all in folder 416, 419, IAFR, SCUA-RJDL-UIC.

国際社会研究（神田外語大学国際社会研究所紀要）第 2 号、2011 年
The Kanda Journal of Global and Area Studies Vol.2, 2011

に都市問題の根源があるとするスグルーの指摘は重要である。しかし本論文が明らかにしたように、公権力による都市再開発もまた黒人コミュニティを規定し、戦後の都市形成に多大な影響を与えていた。こうした都市再開発の一環として取り入れられた公営住宅は、黒人低所得者層には欠かすことのできない事業であった。しかし、ウエスト・サイドで採用された高層住宅という新たな公営住宅の建築スタイルは、結果的に黒人の集中を招いてしまった。そしてこの文脈で登場した高層住宅は、1950 年代後半以降に多くの公営住宅で用いられたが、人種化された都市の貧困の象徴として批判されていくのである。こうしたことから、20 世紀中葉の都市の衰退を検討する際には、産業構造の転換、郊外化、そして都市再開発という 3 つの要素を関連させて分析することが重要であるといえる。

近年シカゴ市では、公営住宅を巡って大規模な都市再開発が「再び」行われている。2000 年から始まった CHA の「トランスフォーメーション計画（the Plan for Transformation）」と呼ばれる一連の計画では、住宅都市開発省の予算をもとに、2015 年までに老朽化した公営住宅を取り壊し、新たな公営住宅の建設を目指している [57]。この計画では、単に老朽化した建物を取り壊し、そこに同じような建物を建て直すのではなく、高層住宅を採用せずに、経済的にも社会的にも新たに統合されたコミュニティの創造を目指している。現在では、カブリニ・グリーンもロバート・テイラー・ホームズもすでに取り壊されている。このように過去の苦い経験は踏まえられているが、新たな都市再開発がコミュニティにどのような変化をもたらすのか、今後も注意深く見ていく必要があるだろう。

---

57) “The Plan for Transformation,”
＜http://www.thecha.org/pages/the_plan_for_transformation/22.php>(2011 年 4 月 1 日).

参考文献

＜日本語文献＞

二次資料

ウィルソン、ウィリアム・J（青木秀男監訳）（1999）『アメリカのアンダークラス－本当に不利な立場におかれた人々－』明石書店。

武井寛（2005）「トランブル・パーク・ホームズ騒動と『共同体の暴力』」『アメリカ史研究』28 号、92 - 110 頁。

―――（2008）「北部都市における公立学校の人種隔離撤廃運動－一九六〇年代のシカゴを事例にして－」『一橋社会科学』5 号、213 - 236 頁。

土屋和代（2001）「『貧困との闘い』とコミュニティ組織の発展－1960 年代後半のロサンゼルスの事例を中心に－」『アメリカ史研究』24 号、51 - 68 頁。

常松洋（2006）『ヴィクトリアン・アメリカの社会と政治』昭和堂。

＜外国語文献＞

一次資料

Chicago Historical Museum

Chicago Area Project Records

Chicago Commons Association Records

Greater Lawndale Conservation Commission Records, 1950-1967

Special Collections and University Archives, Richard J. Daley Library, University of Illinois at Chicago

American Friends Service Committee Records

Chicago Urban League Records

Lea Demarest Taylor Collection

Metropolitan Planning Council Records

Near West Side Community Council Records

Saul Alinsky/Industrial Foundation Records

The Immigrants' Protection League Papers

Special Collections Center, Regenstein Library, University of Chicago

University Public Relations Papers on Urban Renewal

Municipal Reference Collections, Harold Washington Library, Chicago Public Library

Chicago Housing Authority. (1947). "The Kit of Tools for Slum Clearance."

―――. (1950, June). "Maplewood Courts."

―――. (1950, August). "Harrison Courts, Relocation Housing for Low-Income Families."

国際社会研究（神田外語大学国際社会研究所紀要）第 2 号、 2011 年
The Kanda Journal of Global and Area Studies Vol.2, 2011

Chicago Plan Commission. (1949, October). “A Survey of Vacant Land Suitable for Residential Use.”

Community Conservation Board. (1961, March). “Rehousing Families Displaced by Governmental Action in Chicago, 1960.”

政府刊行物等

“Blighted Areas Redevelopment Act of 1947.” (315 ILCS5). (http://law.justia.com/illinois/codes/chapter30/1443.html [2009 年 1 月 2 日]).

“Blighted Vacant Areas Development Act of 1949.” (315 ILCS 10). (http://law.justia.com/illinois/codes/chapter30/1444.html [2009 年 1 月 2 日]).

“Urban Community Conservation Act.” (315 ILCS 25). (http://law.justia.com/illinois/codes/chapter30/1447.html [2009 年 1 月 2 日]).

Chicago Plan Commission. (1940-1941). *Housing in Chicago Communities: Community Area Number 1-75, Preliminary Release 1940, Chicago Land Use Survey, Prepared by Work Projects Administration*. Chicago.

———. (1943). *Master Plan of Residential Land Use of Chicago*. Chicago: Chicago Plan Commission.

Housing and Home Finance Agency. (1961). *Urban Renewal: Excerpts from Housing Act of 1949 and Related Laws as Amended Through June 30, 1961*. USGPO.

Johnson, Lyndon B. (1964, January 8). “Annual Message to the Congress on the State of the Union.” (http://teachingamericanhistory.org/library/index.asp?documentprint=1379 [2009 年 6 月 8 日]).

Unpublished Dissertation

Mikva, Zorita Wise. (1951). The Neighborhood Improvement Association: A Counter-Force to the Expansion of Chicago's Negro Population. (Unpublished MA thesis). University of Chicago, Chicago.

Wade Jefferson, Alphine. (1979). Housing Discrimination and Community Response in North Lawndale (Chicago), Illinois, 1948-1978. (Unpublished doctoral dissertation). Duke University, North Carolina.

二次資料

Addams, Jane. (1990 [1910]). *Twenty Years at Hull-House.* Boston: Bedford/ St. Martin’s.

Bigott, Joseph C. (2001). *From Cottage to Bungalow: Houses and the Working Class in Metropolitan Chicago, 1869-1929*. Chicago: Chicago University Press.

Brick, Howard. (1998). *Age of Contradiction: American Thought and Culture in the 1960s*. New York: Twayne.

Bowly, Devereux Jr. (1978). *The Poorhouse: Subsidized Housing Chicago, 1895-1976*. Carbondale: Southern Illinois University Press, 1978.

Chafe, William H. (1999). *The Unfinished Journey: America since World War II*, 4th ed. New York: Oxford University Press.

Cohen, Adam & Taylor, Elizabeth. (2000). *American Pharaoh, Mayor Richard J. Daley: His Battle for Chicago and the Nation*. New York: Back Bay Books.

Cutler, Irving. (1996). *Jews of Chicago: From Shtetl to Suburb*. Urbana: University of Illinois Press.

Drake, St. Clair & Cayton, Horace R. (1993 [1945]). *Black Metropolis: A Study of Negro Life in a Northern City.* Chicago: University of Chicago Press.

Duncan, Otis Dudley & Duncan, Beverly. (1957). *The Negro Population of Chicago: A Study of Residential Succession*. Chicago: University of Chicago Press.

Gamm, Gerald. (1999). *Urban Exodus: Why the Jews Left Boston and the Catholics Stayed.* Cambridge: Harvard University Press.

Gregory, Steven. (1998). *Black Corona: Race and the Politics of Place in an Urban Community*. Princeton: Princeton University Press.

Grossman, James., Keating, Ann Durkin., & Reiff, Jan. (eds.) (2004). *The Encyclopedia of Chicago.* Chicago: University of Chicago Press.

Guglielmo, Thomas A. (2003). *White on Arrival: Italians, Race, Color, and Power in Chicago, 1890-1945*. New York: Oxford University Press.

Harrington, Michael. (1962). *The Other America: Poverty in the United States*. New York: Macmillan.

Hauser, Philip M. & Kitagawa, Evelyn M. (1953). *Local Community Fact Book for Chicago, 1950.* Chicago: Chicago Community Inventory, University of Chicago.

Hirsch, Arnold R. (1998 [1983]). *Making the Second Ghetto: Race and Housing in Chicago, 1940-1960*. Chicago: University of Chicago Press.

Hirsch, Arnold R. & Mohl, Raymond A. (eds.) (1993). *Urban Policy in Twentieth-Century America.* New Brunswick: Rutgers University Press.

Hornstein, Jeffrey M. (2005). *A Nation of Realtors®: A Cultural History of the Twentieth-Century American Middle Class*. Durham: Duke University Press.

Horowitz, Roger. (1997). *"Negro and White, Unite and White!": A Social History of Industrial Unionism in Meatpacking, 1930-90*. Urbana: University of Illinois Press.

Hunt, D. Bradford. (2005). Understanding Chicago's High-Rise Public Housing Disaster. In Waldheim, Charles & Reudi Ray, Katerina. (eds.) *Chicago Architecture: Histories, Revisions, and Alternatives*. (pp.301-313). Chicago: University of Chicago Press.

———. (2009). *Blueprint for Disaster: The Unraveling of Chicago Public Housing.* Chicago: University of Chicago.

Isenberg, Alison. (2004). *Downtown America: A History of the Place and the People Who Made It*. Chicago: University of Chicago Press.

Kitagawa, Evelyn M. & Taeuber, Karl E. (1963). *Local Community Fact Book of Chicago*

国際社会研究（神田外語大学国際社会研究所紀要）第 2 号、 2011 年
The Kanda Journal of Global and Area Studies Vol.2, 2011

Metropolitan Area 1960. Chicago: Chicago Community Inventory, University of Chicago.

Meyerson, Martin & Banfield, Edward C. (1955). *Politics, Planning, and the Public Interest: The Case of Public Housing in Chicago.* Glencoe: The Free Press.

Orser, W. Edward. (1994). *Blockbusting in Baltimore: The Edmondson Village Story.* Lexington: University Press of Kentucky.

Patterson, James T. (2000 [1981]). *America's Struggle against Poverty in the Twentieth Century.* Cambridge: Harvard University Press.

Philpott, Thomas Lee. (1978). *The Slum and the Ghetto: Neighborhood Deterioration and Middle-Class Reform, Chicago, 1880-1930.* New York: Oxford University Press.

Pritchett, Wendell. (2003, Winter). The 'Public Menace' of Blight: Urban Renewal and the Private Uses of Eminent Domain. *Yale Law & Policy Review*, Vol. 21, Issue 1, pp. 1-52.

Rossi, Peter H. & Dentler, Robert A. (1961). *The Politics of Urban Renewal: The Chicago Findings*. New York: The Free Press of Glencoe, Inc.

Satter, Beryl. (2009). *Family Properties: Race, Real Estate, and the Exploitation of Black Urban America.* New York: Metropolitan Books.

Schwieterman, Joseph P. & Caspall, Dana M. (2006). *The Politics of Place: A History of Zoning in Chicago*. Chicago: Lake Claremont Press.

Self, Robert O. (2005). *American Babylon: Race and the Struggle for Postwar Oakland.* Princeton: Princeton University Press.

Seligman, Amanda I. (2005). *Block by Block: Neighborhoods and Public Policy on Chicago's West Side*. Chicago: University of Chicago Press.

Spinney, Robert G. (2000). *City of Big Shoulders: A History of Chicago*. DeKalb: Northern Illinois University Press.

Sugrue, Thomas J. (1993). The Structures of Urban Poverty: The Reorganization of Space and Work in Three Periods of American History. In Katz, Michael B. (ed.) *The 'Underclass' Debate: View from History.* (pp.85-117). Princeton: Princeton University Press.

———. (1996). *The Origins of the Urban Crisis: Race and Inequality in Postwar Detroit.* Princeton: Princeton University Press.〔川島正樹訳（2002）『アメリカの都市危機と「アンダークラス」－自動車都市デトロイトの戦後史－』明石書店。〕

Teaford, Jon C. (1990). *The Rough Road to Renaissance: Urban Revitalization in America, 1940-1985.* Baltimore: Johns Hopkins University Press.

Thomas, June Manning & Ritzdorf, Marsha. (eds.) (1997). *Urban Planning and the African American Community: In the Shadows.* Thousand Oaks: Sage Publications.

Wood, Elizabeth. (1952, January). The Case for the Low Apartment. *Architectural Forum.* pp.100-117.